

第 19 回介護福祉士 国家試験 問題・解説（やまだ塾）

＝⑥レクリエーション活動援助法＜一問一答＞＝（問題 35～問題 37）

（2007 年 5 月 7 日 HP 掲載）

【レクリエーション活動援助法】

問題35 次の文章は、老人福祉法第13条の一部である。空欄 A, B, C に該当する語句の組み合わせとして、正しいものを一つ選びなさい。

「地方公共団体は、老人の心身の（ A ）に資するための（ B ）、レクリエーションその他広く老人が自主的かつ（ C ）に参加することができる事業を実施するように努めなければならない。」

- | A | B | C |
|--------------------|---|---|
| 1 健康の保持……スポーツ……継続的 | | |
| 2 介護の予防……教養講座……継続的 | | |
| 3 健康の保持……スポーツ……積極的 | | |
| 4 健康の保持……教養講座……積極的 | | |
| 5 介護の予防……スポーツ……積極的 | | |

問題 35: 正答 4 × × × ○ ×

●日本では、第二次世界大戦後に全国レクリエーション大会が開催された。その後は、アメリカの指導により全国に普及し、1970 年に国際レクリエーション協会が「レジャー憲章」を制定し、「レクリエーションは、年齢、性別、教育程度に関係なく、また、心身に障害をもつ人や寝たきりの高齢者にいたるまで、すべての人が享受すべきである」「人はすべてレジャーに対する権利を有する」と述べ、1973 年には日本レクリエーション協会により「レクリエーションは人間の生きる喜びである」と定義された。

●レクリエーションに関する法律の経緯: 1945 年「憲法」(幸福追求権, 生存権), 1949 年「社会教育法」(レクリエーションが法律用語になった), 1963 年「老人福祉法」(第 13 条: 老人健康保持事業の実施), 1982 年「老人保健法」(「医療等以外の保険事業」の実施)

●レクリエーションに関する計画: 1999 年「ゴールドプラン 21」(ヤング・オールド作戦), 2000 年「健康日本 21」(厚労省が行っている国民健康づくりの計画)

1. ×, 2. ×, 3. ×, 4. ○ (A 健康の保持, B 教養講座, C 積極的), 5. ×

【Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.】

問題36 レクリエーション活動援助に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

<http://www.yamadajuku.com/>

やまだ塾

Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.

- A. レクリエーション活動援助とは、余暇活動に特化したものをいう。
- B. 利用者同士の交流によって、集団の成長とともに、個人の成長を図る。
- C. レクリエーション計画は、毎週のグループ活動、さらには毎月の行事や毎年の大きな行事等を盛り込んで総合的に作成する。
- D. 障害者の家族会などのセルフヘルプグループにおいても、グループレクリエーション活動の視点は重要である。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	×
2	○	×	○	○
3	×	○	○	○
4	×	○	○	×
5	×	×	×	○

問題 36: 正答 3 × ○ ○ ○

- A. × 設問はかつての「レクリエーションは心身を健全に保つとする余暇善用の考え方」に基づくものである。現在のレクリエーションは、生きていくうえで、生活そのものに楽しみや快適さをもたらしていく諸活動ととらえられている。したがって、レクリエーション活動援助も余暇活動に特化されない。
- B. ○ 小集団では、グループダイナミクスの作用が起こり、個人と集団がともに変化し、成長していく。人間は集団のなかでの地位、役割を得て、周囲に認められたときに、最も生きる喜びを感じるということを認識しながら援助を展開する。
- C. ○ プログラムの計画は、①毎日行われる日常的なプログラム、②小集団を中心に進められる継続(週間)的なプログラム、③中長期計画に沿って行われる総合(月間)的なプログラム、④行事(年間)的なプログラム、の4つに分類される。
- D. ○ グループレクリエーション活動の基本的な視点は、利用者・メンバーと対等な立場で活動に取り組み、充実した時間をともに過ごし、互いに共感をもって同じ時間を過ごすことが必要とされており、セルフグループにおいても同様の視点が重要である。

【Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.】

問題37 レクリエーション活動援助者の役割に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. 介護保険法に基づく訪問介護において、高齢者の心身の活性化を目的とし、プロ野球観戦に連れていくを試みる。

<http://www.yamadajuku.com/>

やまだ塾

Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.

- B. 介護保険法に基づく通所介護において、過去の経験や遊びなども配慮し、利用者にとって取り組みやすいプログラムの導入を試みる。
- C. 障害者自立支援法に基づく障害者支援施設において、地域における利用者の社会参加を念頭に、利用者にもできるボランティア活動の推進を試みる。
- D. 障害者自立支援法に基づく市町村地域支援事業において、体力増強を目的とした、障害者スポーツ大会の開催を試みる。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	×
2	○	×	○	×
3	×	○	○	○
4	×	○	×	○
5	×	×	○	○

問題 37: 正答 3×○○○

A. × 介護保険法における、「訪問介護」とは、介護福祉士や訪問介護員（ホームヘルパー）が、要介護者等の居宅を訪問し、入浴・排泄・食事などの身体介護、調理・洗濯・掃除などの家事や生活に関する相談・助言などの必要な日常生活上の支援を行うものであるため、「プロ野球観戦に連れていくこと」は対象外である。

B. ○ 介護保険法における、「通所介護」とは、「デイサービス」と呼ばれ、入浴、食事の提供とそれに伴う介護、生活などに関する相談、助言、健康状態の確認その他の必要な日常生活の世話および機能訓練を行うものである。

C. ○ 「生活介護」は、常時介護を必要とする障害者に、主として昼間に、障害者支援施設などで入浴、排泄または食事の介護、創作的活動、生産活動の機械の提供などを行うものであり、設問は適切である。なお、「施設入所支援」のサービスは、障害者支援施設に入所する障害者に、主として夜間、入浴、排泄または食事の介護などを行うものである。

D. ○ 市町村地域支援事業は、障害者が自立した生活ができるよう、地域の実情に応じた事業を行うもので、そのうち「地域活動支援センター」では通所する障害者に、創作的活動または生産活動の機会の提供、社会との交流の促進などの便宜を供与するものであり、設問は適切である。

【Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.】